

## 2022 年度事業計画書

### 公益財団法人医食同源生薬研究財団

当研究財団は、太古より生薬として重宝されてきた農作物や水産物によって人々を元気にし、年をとっても元気澆刺で働ける世に変える、いわゆる「医食同源」の社会実装による新たな社会の構築を目指し、2021 年 4 月 14 日に設立し、事業を行っている。

当研究財団では、健康に良い、疾患を予防するということが経験的にわかっているものの、その医学的根拠の脆弱性から広い世の中に埋もれてしまっている農水産物由来の食品について、その効果・効能について医学的根拠となる実証的研究を実施・支援し、その結果を広く公知することによって、医食同源の考えに基づく食生活の改善を促進し、もって食を通じた人類の心身の健全な発達や健康の維持に寄与すること、並びに生活習慣病の蔓延による我が国の医療費増大の抑制に、社会実装の実現によって貢献することを事業の目的としている。その目的を果たすべく、2022 年は財団主導研究、研究助成、貢献者への褒賞、広報活動を行うものとする。

### 事業の内容

#### 1. 財団主導研究

##### 1) 幼稚園・保育園における給食で提供される米飯の種類が欠席率および欠席事由等と与える影響の検討

本研究では、給食会社が提供した食事内容と、提供先の幼稚園および保育園での出欠及び欠席事由のデータより、統計的解析法を用いて、食と様々な欠席要因との関連を数学的に割り出すことを目的とする。特に全粒穀物のうち、本研究では米に焦点をあてる。全粒穀物は栄養が豊富であることが知られているが、たとえば、米であれば、外皮を除去していないため、咀嚼の困難さや消化に悪いなどの欠点もある。そのため栄養を豊富に残す米の加工は大きく3つ存在し、外を薄く削る方法、高水圧をかけて外側も食べれるようにする方法、発芽させ食べられるようにする方法がある。本研究ではこれら加工玄米に焦点をあてる。具体的には、園児の給食が加工玄米であるか否かによる、園児にとって大きな欠席事由となる感染症による欠席への影響を明らかにする。さらに、幼稚園および保育園では、身長と体重を測ることが義務付けられていることから、加工玄米が及ぼす健やかな成長についても検討する。

当然、幼稚園および保育園以外での食事内容、園児の睡眠時間、規則正しい生活リズムか否かなど、感染症と関りが深い自身の持つ免疫力と関連する要因は多くある。したがって、園での食事内容だけで感染予防との関連が分からない可能性が考えられる。そのため、全国の様々な地域からランダムに園児を選ぶことで、背景要因の影響をランダムに

し、その可能性をできるだけ小さくする。具体的には、300人以上のデータがあれば、効果量が低くとも、十分な検出力が保てることが統計学的にわかっているため、本研究ではn数を300人以上集めることを目標とする。また、主食以外の栄養素が与える影響も大きいことから、給食献立のデータを取得し、それら栄養素を調整因子とすることで、その影響が最小限となるよう解析する。さらに、園児の喫食状況は、各園で保存していることから、喫食状況を加味した解析を実施する。

食は大事であることは誰もが知っている。しかしながら、未だ科学的には子どもにおける食生活が及ぼす感染予防などへの影響については不明瞭な部分が多い。本研究によって、今後園児にはどのような食を提供することで、感染予防につながるかの要因を調べることができる。さらに、様々な欠席要因との関連だけでなく、身長と体重への影響なども検討できることから、食が及ぼす健やかな生育について指針を得ることができる点で、とても意義深い研究である。将来的に子どもたちが健やかに育っていく食生活環境を目指すうえで、重要なデータとなることが期待できる。

## 2) コメ由来サプリメント類が健康に及ぼす影響の検討

古来より日本人の主食である「コメ」は健康のために用いられるほど滋味滋養に優れ、健康を支え続けてきた生活に欠かせない食物である。かつては1日に玄米ご飯約13杯と少しの副菜のみで、元気澆刺と日々の生活と肉体を駆使した労働をこなしていたほど、必要な栄養素がバランス良く含まれている。

しかしながら国民1人、1年あたりの米の消費量は、1962年度の118.3kgピークに一貫して減少傾向にある。1990年度には70.0kg、2005年度には61.4kg、2018年度には53.5kgまで減少している。また、そのほとんどは白米であり、もっとも豊富な栄養素を含有する部分は精米によって排除されてしまっている。

当研究財団では、コメに含有されている栄養成分に着目し、コメ由来のサプリメントの研究を実施することによって、改めてコメという食物の持つ疾患予防・健康維持に関する機能性を社会へ広く公知することを本研究の目的とする。

コメ由来サプリメント類における先行研究においては便秘の改善や肌質の改善などいくつかの研究報告を確認することができる。しかしながらコメ由来のサプリメントを同じ土俵で横断的に検討した研究はない。2022年度においては、まずは当研究財団で入手可能なコメ由来サプリメント類の安全性および健康に及ぼす影響を東北大学にて探索的に検討し、2023年以降の財団主導研究の礎としたい。

上記1) および2) については、研究結果を以下の方法で広く公知する。

- ① 論文化の上、オープンアクセスジャーナルへ投稿。
- ② 当研究財団が主催もしくは共催する学会・研究会・シンポジウムなどで発表。
- ③ 一般向けに成果をわかりやすくまとめた上で、出版物もしくは電磁媒体にて公開。

## 2. 研究助成事業

わが日本には様々な知見をもつ優秀な研究者が存在している。そのような研究者に対し、農水産物由来の食品の効果・効能について探索的な研究、作用機序の解明などを目的として研究助成を実施する。

### 1) 対象

- (1) 国内の大学、研究機関に所属する研究者（大学院生、学生を除く）
- (2) 上記(1)と同等以上の研究能力があると本財団が認めた者

### 2) 選考方法

公募を行い、選考委員会の審査結果に基づき、理事会において決定する。

### 3) 2022 年度助成金

- (1) 総額上限：3,000 万円、研究 1 件につき原則として 300 万円以内、最大 10 件
- (2) 公募テーマおよび助成金額詳細：2021 年度選考委員会及び理事会にて決定
- (3) 公募期間：2022 年 4 月～3 月
- (4) 助成金交付時期：2021 年度選考委員会及び理事会にて決定

## 3. 貢献者への褒賞

医食同源や生薬の分野に関して、とりわけ社会実装の観点から、主としてこれまでに高度の実証的研究活動又は普及活動を行ってきた個人又は法人に対して金一封を付して授与する。2022 年度は、総額上限 1,000 万、1 件につき原則として 100 万円以内、最大 10 名に授与する。

## 4. 広報活動

### 1) ジャーナル関連

当研究財団における研究成果を掲載する学術雑誌、および当研究財団が医食同源や生薬の分野に関して特に広く広報したい研究成果について論文掲載支援を実施する。

### 2) ホームページでの広報

当研究財団における研究成果や研究助成情報、シンポジウム・講演会情報などを告知する。

### 3) シンポジウム・講演会の開催

当研究財団の理事、評議員、研究助成者、関係者による学術的発表の機会を設ける。

### 4) 積極的な情報発信

当研究財団の活動内容は、できるだけ多くの国民の目に触れるよう、プレスリリースなどを活用し、積極的に情報発信する。